

研究・調査報告書

報告書番号	担当
98	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Effects of ethanol and caffeine on behavior in C57BL/6 mice in the plus-maze discriminative avoidance task. plus-maze discriminative avoidance task における C57BL/6 マウスの行動へのエタノールとカフェインの影響	
執筆者	
Gulick D, Gould TJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Behav Neurosci. 2009 Dec;123(6):1271-8.	
キーワード	
plus-maze discriminative avoidance task、マウス、エタノール、カフェイン	
要 旨	
<p>カフェインはしばしばエタノール摂取と同時にまたは直後に摂取される。plus-maze discriminative avoidance task (PMDAT) は学習、不安、運動量の測定を行うことができる。マウスで PMDAT を行い、エタノールとカフェインの学習、不安、運動量への影響を調べた。この結果、エタノール (1.0-1.4 g/kg) は用量依存的に不安と学習能力を減少させ、運動量を増加させた。カフェイン (5.0-40.0 mg/kg) は用量依存的に不安を増加させ、運動量と学習能力を減少させた。カフェインはエタノールによる学習障害を回復させることができなかった。しかしながら、1.4 g/kg のエタノールはカフェインの不安惹起作用を阻害した。以上より、カフェインとエタノールは相互作用して PMDAT での行動を調節するが、カフェインはエタノールによる学習障害を回復できないことが明らかになった。エタノールによる抗不安作用はアルコール摂取の一因となり、カフェインによる不安惹起のエタノールによる阻害が共使用の一因となる可能性がある。</p>	